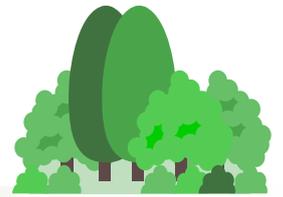


かわらばん 第4号



～第4回豊間地区防災緑地ワークショップが開催されました～

平成 25 年 6 月 30 日(日)に「豊間地区防災緑地ワークショップ」が豊間公民館にて開催され、豊間地区の住民 29 名の方が出席されました。

今回のテーマは「まとめ/計画内容と今後の取り組みについて」でした。これまでのワークショップをふりかえり、緑や花のゾーン分けや植栽の仕方、管理の方法など防災緑地全体について、5 つのグループに分かれて意見交換しました。

ワークショップは、豊間支援・東京専門家グループに支援していただきました。

ワークショップ全 4 回の流れ

- 第 1 回ワークショップ (4 月 20 日(土))
防災緑地を知ろう
- 第 2 回ワークショップ (5 月 18 日(土))
防災緑地のイメージを考えよう (使い方などについて)
- 第 3 回ワークショップ (6 月 9 日(日))
防災緑地のイメージを考えよう (植生などについて)
- 第 4 回ワークショップ (6 月 30 日(日))
まとめ/計画内容と今後の取り組みについて

第 4 回 豊間地区防災緑地ワークショップ プログラム

1. はじめに
・開会挨拶
2. 前回のふりかえりと今回のポイント
3. 参考事例説明
・事例 湘南砂防林(神奈川県)
・事例 水軒堤防(和歌山県)
4. グループディスカッション
・参加者の自己紹介
・話し合い
➢ 前回の意見を反映した計画について
➢ 整備後の防災緑地と地域の関わり(管理、利活用など)
・中間発表
5. 中間まとめ
6. グループディスカッション
・話し合い
➢ 中間発表を受けて、具体的に
・発表
7. 全体意見交換
8. おわりに
・まとめ
・次回の予定
・閉会の挨拶

前回までのふりかえりと今回のポイント

これまでの3回のワークショップで、緑地のゾーン分けや必要な施設・機能、緑地に必要な樹種や植栽方法等についてアイデアを出し合ってきました。

最終回となる今回は、100 年、1000 年と続く防災緑地をつくるために、緑地と地域とがどのような関わりを持っていくか、これまでのアイデアや意見を踏まえて全体的に意見交換しました。



前回までの意見・アイデアを示した平面図 ▶



グループディスカッション（参加者から出された主な意見）



A
班

住民参加型植栽ゾーンに植えたいもの、植える方法

- ・ 四季折々に楽しめる植樹を。
- ・ ハマナスの群生は大事にしたい。
- ・ 楽しい空間づくり…皆が楽しく、行きたくなる場所。地域の人々が利用しやすく、集まりやすい場所。
- ・ 地域の気候や土に合う木を植える。潮に強い植物等。

緑地の育て方、管理の方法、区画整理地区とのつながり

〔苗の育て方〕

- ・ ツバキ等を挿木で増やす。地域の人で手分けして。
- ・ 小学校で育ててもらおう。⇒子どもたちが緑地に愛着を持つきっかけになる。
- ・ ドングリを集めて全国の人に育ててもらおう。⇒植樹や育樹で、折に触れて遊びに来てもらえる。

〔管理の体制〕

- ・ 諏訪川の周りは河川愛護会があり、分担して草刈り等をしている。そのように、場所ごとに分担して愛護会のような組織を立ち上げてはどうか。
 - ・ 自分たちでできることと、県や市にお願いすることの役割分担を明確にする。
 - ・ 町会毎に管理箇所を分けて競争する。



地域参加型植栽ゾーンについて

- ・ 維持管理が大事なので、管理しやすい方法を考える必要がある。
- ・ たとえば、実を収穫するなど、生産して利益を生むことを目指す場所は、集中させた方がよい。毎日管理が必要なので大変。
- ・ 以前からある井戸を活用して水やりをしてはどうか。水道蛇口が近くにあると便利。（鍵は町会で管理する。）
- ・ 1か所だけ先行して試行することはできないだろうか？
- ・ 奥行を深くせず、南北に細長い形状にすれば、家から近い人が増えて管理しやすくなるのでは。



B
班

樹種について

- ・ ビャクシンは浜風に強い。昔から庭木として植えられ、材木にもなる。
- ・ サクラを植えて、桜祭りをしよう。 ・ 花粉症にならない木を。
- ・ 提灯をつるしてお祭りをする。盆正月以外にも、人が帰ってくるように。

防災緑地の管理について…地域内外の協力体制を作る

- ・ 当初の植林は、豊間の住民全員でやる気持ちで。高台に移転する人も豊間の人。一緒にやろう。
- ・ 維持管理の責任を持つ主体（町会やグループ）を、区域ごとに決める。
- ・ 全国、世界からボランティアを呼び。



住民参加型植栽ゾーンについて

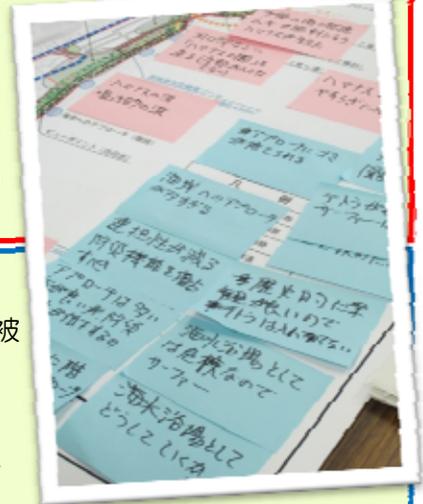
- ・ 町会ごとに責任を持って管理するなど、責任の所在を明確にする必要があるのではないか。
- ・ 住民を中心として、ボランティア等の支援も考えていくのがよい。

防災緑地に必要な樹種について

- ・ 防災緑地に植える樹種は、専門家のアドバイスも受けて、気候や環境に適したものを選ぶ。
- ・ 管理しやすく、手間がかからないものがよい。

防災緑地の植栽方法や維持管理について

- ・ 植樹祭を開催してボランティアを募り、植えた木に名前を付けてもらってはどうか。折に触れてイベントを行い、植樹してくれた人が継続的に訪れるように工夫する。
- ・ 管理を続けていくためには、実が取れたり、花が咲いたり、何らかの見返りが欲しい。

**どこにどんな木を植えるか**

- ・ 海側の植栽は、津波に強い木を。県提案のクロマツでは、マツクイ虫の被害が心配なので、混成林にしてはどうか。
- ・ 住宅地側の植栽は、どんぐりやケヤキ、潮風に強いサクラなど。
- ・ 「南国風」をイメージして、ソテツやパイナップル、バナナ等はどうか。
- ・ 花や実の時期が連続するように木の種類を選ぶ。

- ・ 海水浴客、サーファー、観光客が集まる場所には、きれいな花を植えたい。

だれがどのように植えるか、どのように管理するか

- ・ 海側は県による管理をお願いしたい。
- ・ 人が集まるようなイベントができないか。
 - ◆ TVに放映されるイベント→拠点施設に人が集まる
 - ◆ 植林イベント、植栽管理のイベント
 - ◆ サンドアート、サーフィン大会などと合わせて実施
 - ◆ 「夏涼しい」「初日の出」など、豊間の魅力を活かす
- ・ 生産組合を作って果実を販売したり、直売所を設ける。

**何を植えるか？**

- ・ ユズ…特産品作りに。実のなる木は地元が活用。
- ・ ムクロジ…いわき市にもとからある木で、御神木とされることも。等々
- ・ フェニックス…豊間は「東北の湘南」。そのイメージに合う樹種がほしい。
- ・ 砂地を必要とするハマエンドウやハマヒルガオは、海側に植える（飛砂を避けるため）。
- ・ タブノキ…鞍掛山で見られる樹。

誰が管理していくのか？

- ・ 県有地なので、基本は県の管理だが、県から地元への委託も考えられる。
- ・ 地域の緑地は、地元住民でも管理すべき。豊間ではこれまで地域管理活動の実績がある（地元住民全員参加の清掃活動や、地元愛護会の河川清掃等）。
- ・ 住民で管理組合を作ってはどうか。
- ・ 区域を分けて企業に管理してもらうなど連携する。
- ・ ボランティアを地域外部から広く募る。

管理のために

- ・ 散水施設や井戸、公園と一体となった駐車場も必要。



参考事例説明（湘南砂防林、水軒堤防）



湘南砂防林（神奈川県）

- 当初はクロマツだけが植えられていましたが、戦後の伐採や台風などにより荒廃が進んだため、昭和40年頃から、常緑広葉樹とクロマツとの混栽や防風ネット設置などの工法が採用されました。
- 昭和62年と平成2年には、県民が参加した植樹祭で、計30万本が植栽されました。
- 近年では、市民やボランティアが、砂防林の維持管理活動に参加しています。



出典：湘南砂防林パンフレットより

水軒堤防（和歌山県）

- 「水軒の浜に松を植える会」は、和歌山市西浜にある昔の水軒の浜に沿った緑地をきれいにし、今はほとんどなくなっている松を植えて美しい風景を取り戻そうと、自治会長をはじめとした有志で結成されました。
- 中学生による植樹、清掃活動、子どもたちが松原に親しみやすい環境づくり等、ボランティアで様々な取り組みを行っています。



これまでの意見交換のまとめ



防災緑地の管理・活用への参加

- ・ 地域参加型植栽ゾーンを中心に、住民も防災緑地の管理に参加していこう。
- ・ 実のなる樹木を植えて収穫物を加工・販売したり、エリアを分けて管理を分担したりといったアイデアを、今後も検討していこう。

参加の呼びかけ

- ・ 植林や管理は、豊間の住民が中心となっても、そこで閉じるのではなく、全国の皆さんに呼びかけて広く参加を募っていきたい。

管理の分担

- ・ 長い緑地全部を住民のみで管理するのは大変。たとえば斜面が急な海側は県にお願いするなど、分担を検討しよう。

土地利用と一体となった緑地の活用

- ・ まとまったスペースがとれる広場を交流拠点として活用したい。
- ・ ウォーキングロードや、公園と一体となった遊び場など、緑地の活用の可能性が広がっている。



4回のワークショップ、お疲れさまでした！

提言発表会のお知らせ！

日時：7月28日(日) 10時～12時
場所：豊間公民館



これまで4回のワークショップでの議論を、ふるさと豊間復興協議会（支援：東京豊間・東京専門家グループ）が「提言」にまとめ、県に提出します。

お問い合わせ先

主催 福島県いわき建設事務所

問合せ 担当：緑川、兵藤

連絡先：0246-35-6075

